

第4回 十和地域まちづくり推進協議会 会議録要旨

【日 時】 平成31年3月19日（火）午後6時30分～9時15分

【出席者】 宮地孝夫委員、安藤岳委員、松下洋平委員、川下徳之委員、田頭誠志委員、矢野健一委員、酒井紀子委員

【行政側】 竹本地域振興局長、酒井町民生活課長、大元まちづくり推進室室長、中井四万十川対策室長、坂東四万十川対策室主任、富田地域振興課副課長、西尾まちづくり推進室主査、竹村まちづくり推進室主事、井口地域振興課主査

【傍聴人】 なし

【議事及び質疑応答】

議事

(1) 魚道整備に関する意見書（町長への提案）まとめ

（井口_地域振興課主査）

前回の会で、魚道整備に関する意見書（案）を作ることが行政の宿題になっていた。今日はそれをお示しし、委員皆さんのご意見を伺いたい。※配布した意見書（案）を見ていただきながら内容説明

（川下徳之委員）

読ませてもらったが、全体的にもう少しはっきり書ききってほしい部分がある。行政が前向きに検討しますというのは、ほぼやらないに等しい。まず一つ目は、魚道設置の候補地は戸川川をモデル河川にすると書ききってほしい。二つ目は、やるからには本気でやるという意欲を表明したい。この協議会で話し合ったことが、ただの出し合い話で終わらないように、実行に向けて現実性を持たせたい。

（矢野健一委員）

戸川や広瀬の奥でも昔はオオサンショウウオが捕まえられていた。四万十川に間違いなくいる。魚道はあまり大きな規模じゃなく、小さくて簡易なもので良い。滑り台みたいな感覚で、河川の脇の方を通るようなイメージ。心配なのは、田んぼの水利権。河川から田んぼへ水を引いている場合、所有者との話し合いがあると思う。納得してもらうためには、この魚道を設置することによって何をしようとしているのか明確に説明する事。研究対象にします、数年後には魚道は取り外します、とか条件を入れると良いのでは。

（酒井紀子委員）

堰ができる前後のデータはある？それと、どれぐらいの予算で出来るものか気になる。

（中井_四万十川対策室長）

ここの川（戸川川）の堰のデータは無い。そもそも魚道設置を目指すのは、子どもに対する環境教育が大きな目的だった。魚が本当に遡上しているのか、いないのか。堰があるから登れなくて下に魚が溜まっているなら、それがどれぐらいの数いるのか、毎月観察していくデータ取りが大切。環境学習の一環として、毎月のデータ取りに子どもを参加させるとか（冬場は寒いけれど）そういう提案もできるのでは。魚道は、普段流れている水の流し方を変えるだけなので、水量には影響がない。反対意見が出てきたら、水量に影響がないことを示すデータを示すなどして、説得するのが良いと思う。四万十川の上流でも、魚道設置の動きはある。

（富田_地域振興課副課長）

さきほど予算の話も出たので、少しお話をさせていただく。戸川川の堰の設置状況を3月11日に現地へ調査に行った。本日皆さんのお手元にも写真でお示しさせてもらったが、全部で5か所の堰があった。このうち、一つ目の堰は想像した以上に高低差があった。ここに魚道を設置するとなると、魚が遡上しやすくするために高低差を少しでも緩やかにする必要がある。緩やかにするには川底を掘って着水面への高さを抑える必要があるが、それをしてしまうと護岸（コンクリート）の根固め部分を連動して掘ることになり、さらにそうしてしまうと護岸の法面が宙に浮くことが想定される。その対策等を考えると、大規模な河川工事になるのではないかと。我々が目指す簡易な魚道とは方向が違ってしまふ。それから、たまたま戸川の区長さんと会うことができたので、魚の遡上がこの地区で見られるか聞いたところ全部で5つあるうち、本流から数えて二つ目までなら何とか魚影が見られるがそれ以上、上流の堰になると遡上の様子はほぼ見られないとの話があった。一つ目の堰でさえ、降雨のあとの水量が豊富で、条件が良いときだけ魚がのぼっているようで、それほど頻繁に魚の姿を目にすることはないとのこと。ちなみに、中井室長からさきほど話があったデータの取り方は？

（中井_四万十川対策室長）

水生生物調査というものがあって、小学校や中学校では年1回やっている。外部の専門機関に全部任せなくても良い。学術的にしっかりしたデータをとるなら月1だが…。お金をかけずに（自分たちで）やるなら予算は低く済む。データの取り方と数え方を教えてくれる人は近くに居る。外部委託の調査は年間数万円の予算がかかる。

（田頭誠志委員）

地元高校でも簡易な検査はやっている。川がきれいかわいいか。かなりお金をかけないと、大したデータにはならない。月1回魚種を数えて、川が生き返った！となるのか（疑問）そういうデータが取れるのか？

（中井_四万十川対策室長）

前後の変化を少しでも根拠付けてやろうとしたらそういうデータを蓄積するしかない。生物の分布

調査もあまりお金をかけずに地元の人も交えてやれたら良いと思うが。

(田頭誠志委員)

そもそも本流の鮎は？放流したり、その時期を早めたりしているけれど。

(中井_四万十川対策室長)

鮎にフォーカスすると正確なデータにならない。学術的に特化せず、いろんな生き物が増えたよという観点で見てもらえれば良いと思う。

(田頭誠志委員)

川に生き物が増えるよりも川に人が来る、そこが先行すると私は思っている。皆が川に興味を持つことが大切。子どもの参加の仕方は強制にならない方法が望ましい。

(安藤岳会長)

ひとまず大なり小なりやってみて、ひとつでも成功にしてそこから活動の幅を広げては。

(川下徳之委員)

子どもたちには実体験から川への関心を持たせることが大切。川に子どもを連れて行って遊ばせる親は少数。しゃくり漁とか、漁をすることをもっとやろうよと提案したい。学校側にも環境学習をもっとやりませんかと言っても良いと思う。山林では間伐体験とかやっている。川があっても良いんじゃないか。川遊びのプロはこの辺にはたくさんいる。

(田頭誠志委員)

今は学校も忙しいので、こうした方が良いというプランがいると思う。年1回では川に対する興味がなかなか沸かない。定期的に、計画性をもって取り組む必要がある。大切なのは継続性。授業にゆとりができたからやろう、じゃなくて。もし本当にやるなら急がないと。学校には余裕がない。

(松下洋平委員)

クラブ活動をやっている学校は？そこを中心に小学生に参加を促してみるとか。川から田んぼ等へ水を引いているような利権者に対してはきちんとしたデータをお見せする必要があると思う。子どもの頃、土佐清水市の置き網漁に学校の行事で行ったことがある。あの当時は特に面白いとは思わなかったが、今振り返るとすごく貴重な体験だったと思う。川の調査には高校生も巻き込めたらと思うが、誰が中心となるか。

(酒井紀子委員)

子ども達を参加させると活動に広がりがあると思う。森林環境税の勉強もあるが、税金を使って山のためにどんなことをしているか、それによって山林がどう変わるか、そして山が変わることによって河川にはどんな影響があるか。四万十川で子どもを遊ばせるには本流は汚い。川底がぬるぬるする。

(田頭誠志委員)

調査をやるなら、もっと効果が得られるものを。予算はそんなに要らないが、自分が言っているのは時間がかかる。

(中井_四万十川対策室長)

土佐清水市は NPO に協力してもらっている。下は2歳、上は50歳台か60歳台。イベントに近いと思うが、毎月続けて河川調査を行ったと聞いている。3～4年かけて調査し、設置後①、設置後②、その後…みたいな推移データをとっている。四万十町が求めているのは濃く狭く、なのか薄く広くなのか。

(酒井紀子委員)

両方、並行しても良いと思う。

(中井_四万十川対策室長)

学校にも時間の余裕はない。

(田頭誠志委員)

昭和地区に東屋があるが、あそこに看板があるのを知っているか？「四万十川を大切に」という看板が2枚、「しまんトロッコ」が1枚。かなり昔に設置された看板だが、四万十川を大切にしようというメッセージは40～50年前から同じことを言っている。パッとやってイベント的に終わってしまうと効果がない。

(酒井紀子委員)

四万十川のために使える予算は無い？四万十川の本流も良いけれど、まず支流を！という文言をこれから取りまとめる町長への意見書にははっきり入れてほしい。

(中井_四万十川対策室長)

水質は数値だけ見ると良くなっている。でも現実的には鮎が減っている。原因は色々な事柄が複合的に絡んでいると思う。四万十川を大切にするという啓発的なものは取り組みやすいが、手あたり次第にやっても効果はぬるい。

(安藤岳会長)

魚道を設置する事には、反対意見は無いということで良いか。意見書はどう仕上げるか。

(富田_地域振興課副課長)

これまでの皆さんのご意見をとりまとめ、素案を事務局で作成する。そのうえで皆さんにご意見を頂戴したいところだが、ここは安藤会長にご確認いただき、問題なければ町長への意見書提出という流れでも良いか。

(一同)

異議なし。

(安藤岳会長)

了解した。それでは、次の議題に移る。十和ホームページ作成に向けた具体案について。

(酒井紀子委員)

お金のからむことだが、ボランティアでやる？仕事？

(川下徳之委員)

これ、協力隊の仕事にできる？

(富田_地域振興課副課長)

整理、発信はできる。ただ情報の収集が一番大変な仕事。町のホームページを見てもらっても、各課検索をしても情報がスカスカで恥ずかしながらほとんどの課が出来ていない。町として協力体制をきちんと作らないとうまくいかない。

(大元_まちづくり推進室室長)

情報発信については、まちづくり推進室の使命だと考えている。31年度で見直しをかけ、1年かけて取り組もうとしている。これとは別に、十和だけっていうのは各所への調整もある。富田副課長が言っているように簡単ではない。

(富田_地域振興課副課長)

地域おこし協力隊には個別のミッションがあつて、他の業務もやりながらになる。また、情報発信専属で新たに募集をかけるにしても、協力隊が興味のある範囲と、十和の人々の求めているものが必ずしも一致するとは限らない。

(川下徳之委員)

仕事として持たせると情報を拾ってきて載せる、という一連の流れをきちんとやるのではないか。情報の発信担当を置くことも大事と思う。町を広く深く PR するためには、専門部署を設けて協力隊のミッションを限定しても良いのでは。

(酒井紀子委員)

しかしそれをすると、その人がいなくなったらアウト。他の人の視点も入ってこないと独自の色が出ない。町の人材育成部署で12月まで連続で情報発信講座をやらしてもらえないだろうか。

(田頭誠志委員)

ページ更新の頻度をどれだけ上げるか。ICT スキルと、時間と、個々がこれをやる必要性を感じているかどうか。

(酒井紀子委員)

何かきっかけがないと、やりようがない。

(松下洋平委員)

「チーム四万十」は？意見書に書ききってはどうか。

(酒井紀子委員)

地域コーディネーターは絶対いると思う。

(田頭誠志委員)

協力隊はミッションを特化しないと、何でもやりすぎて住民から見ると「何やってるの？」となる。これ（情報発信）に関わってもらうなら、それに特化した人を募集しないといけないと思う。

(酒井紀子委員)

これに絡めないなら、十和の人材を育てないといけないと思う。学びの場があっても良いのでは。他の人に頼ってばかりだと、何だかね。

(大元_まちづくり推進室室長)

そういう人材を育てようと思えば出来る。そうじゃなく、単に発信だけならば特化した人を構えれば良いと思う。

(安藤岳会長)

役場の中に広報担当はいないのか。

(大元_まちづくり推進室室長)

十和の、って特化するより全体を考えないといけない。

(富田_地域振興課副課長)

「公」がやるなら情報の公平性を確保することが必須条件。例えば予土線のホームページのように外部委託したり、集落活動支援センターのように旧小学校区単位で、外部が主体となれば融通は効く。それに対して県の補助金対象になるが、ランニングコストの部分に補助はない。

(大元_まちづくり推進室室長)

地域おこし協力隊も任期は3年。3年経過したら自立することを目標にやっている。

(田頭誠志委員)

集落活動支援センターは単独(個人)ではできない。それをやるだけの活力が地域にあるか、また、続けられるか。

(富田_地域振興課副課長)

ブログについては本庁企画課の情報担当と協議した。一番の懸念はブログの炎上とのことだった。町がやるのは難しいと思われる。

(川下徳之委員)

自分は、そこを担うのは「チーム四万十」だと思っている。リーダーは必要だろうが。

(安藤岳会長)

ここまでの議論を聞いていて、意見書として町長へ提出する…ことになるのかこれは。例えばホームページを開設するにしても、運営主体も決まっていない。

(酒井紀子委員)

地域おこし協力隊が難しいなら、今、役場内部にいる有能な人材を派遣してもらえないか？

(大元_まちづくり推進室室長)

技術的に教えてという要望なら、月1回程度ならできるかも。ただ、地域が何を求めているのか。ここをはっきりさせることが重要だと考える。

(酒井紀子委員)

ブログで情報発信できるスキルを持ちたい。それを支援してくれる人に来て欲しい。

(田頭誠志委員)

それを役場職員に求めるのは厳しい。IOC サポーターが教育委員会にもいるが、現実的ではない。

(大元_まちづくり推進室室長)

地域おこし協力隊の情報担当をミッションとして、募集をかけているが今日現在まだ応募者は居ない。十和に積極的に関われる人員が出せないのが現実。

(田頭誠志委員)

そもそもなぜ、十和のホームページが欲しいのか。運営も内容も、自由度を求めるなら役場が主体ではないと思う。

(酒井紀子委員)

ホームページ開設を目指す理由は、十和での滞留人口を増やすため。十和内でも住民同士の関係性は年々薄くなってきている。十和で暮らすことを住民自身が楽しめるようにしたい。ただホームページの運営を誰にするか。町がやることで制約が生まれるなら、外部委託はどうか。

(川下徳之委員)

私たちが「チーム四万十」を作って、運営もやるから補助金出して（しっかりやるから）は、有り？

(竹本_地域振興局長)

補助金には色々な制約がある。「公」が出すならそれなりのチェックは入る。

(酒井紀子委員)

人材育成という観点で、そういうスキルを持つ人を育ててほしいという要望は OK か？

(大元_まちづくり推進室室長)

はい。ただ、覚悟はいる。続けてね、という。

(酒井紀子委員)

地元の人のおこし声や声を叶えることが大切だと思う。

(田頭誠志委員)

2つ、やり方があると思う。ひとつは、「チーム四万十」への講座をお願いすること。企画運営に特化して町にそういう講座をやってほしいと要望を上げる。講座の委託料に見合った内容にする必要はあると思う。ふたつめは、窪川・大正・十和で講座を例えば各10回やって、と依頼すること。地域間の公平性を保つためと、この情報発信の取組自体が町全体に広がるように。

(大元_まちづくり推進室室長)

例えば十和で人を集めておいて、なら可能かもしれないが町としては広く全体に広めることに視点がある。

(宮地孝夫委員)

要望が通る、通らないは別としてこの協議会としての意見は出しても良いのでは。自分たちは全体というよりは、十和のことを考えるために集まっている協議会の委員だから。

(川下徳之委員)

その通り。だが、このままだと我々の意見は通らない。

(宮地孝夫委員)

町が予算を広く住民のために…と考えるのはごもっとも。ただ、要望自体は上げて良いと思う。

(大元_まちづくり推進室室長)

何かもう一つ、工夫をしてもらえないか。

(富田_地域振興課副課長)

色々な意見を頂戴しているが、まとめると、十和ホームページの運営主体は役場外。住民主体の運営ができるように行政が灯をともしたい。そういうことだと理解したが、良いか。

(田頭誠志委員)

バラバラに個々でホームページを立ち上げるよりも、情報をひとまとめにする力が要る。それが今は出来ていないから、こういう議論になる。

(富田_地域振興課副課長)

意見が通る、通らないは別としてこの協議会としての意見は出そうというお声も出た。事務局として、意見書の案が出来上がったら安藤岳会長に見ていただき、その後OKが出たら町長へ提出するというので良いか。

(一同)

異議なし。

(安藤岳会長)

了解した。それでは次の議題に移る。次は「チーム四万十（仮称）」を作るための人材について。前回、このチームを作るために宿題を持ち帰っていた。誰を推薦したいか、それぞれが考えてくると、と。

(富田_地域振興課副課長)

考えてきた方はご意見をいただきたい。まだ、本人への推薦了解を取ってない可能性もあると思うので個人名は非公開とし、ある程度何人ぐらいの人数のチームが出来上がりそうなのか知りたいので、それぞれ発表してほしい。

(複数の委員から発表あり)

※個人で12名、団体として1団体の名前が挙がった。ただし個人名は重複している人もいるため、あくまでも延べ人数。

(富田_地域振興課副課長)

この件については、私も会長もすぐにここで結論を急ぐ必要はないと思っており、来年度のまちづくり推進協議会での継続審議にしても良いのではと考えている。

(安藤岳会長)

異議等はないか。

(一同)

異議なし。

(安藤岳会長)

それでは、議事のその他に移るが何か発言がある方はどうぞ。

(田頭誠志委員)

皆さんはこの（手元に資料あり）、春の四万十周遊スタンプラリー企画のパンフレットを見たことがあるか。発行元は観光協会になっているが、中身が間違いだらけでひどすぎる。十和地域にある宿なのに、住所欄は窪川地域の別の宿の住所になっていたり、どういう基準でその店を掲載したのか（あるいは掲載しなかったのか）まったく意味が分からない仕上がりになっている。こんな町の観光に関

係するものを役場の担当課はチェックしなかったのか。非常に疑問に感じる。ただ、この協議会の場でどうこうすることはできないので、この意見はここで置く。

もうひとつ、こいのぼり公園について。公園、と名称についているが実際はただの広っぱ。四万十町外から遊びに来る人は、公園というぐらいだから何か遊具ぐらいあるだろうと期待してくる人もいると思う。このまま何もないただの広場にするのであれば、自分はこいのぼり公園という名前自体を変えるべきだと思う。駐車場という機能を目的にする場所なら、こいのぼりパーキングというのはどうか。こいのぼり公園というのは地域にとってイメージダウンでしかない。あくまでも個人的な提案だが。

(酒井紀子委員)

この場所は、キャンプが出来るのか、出来ないのか。それが知りたい。もし公園、と言い続けるのであれば公園的な整備はできないのだろうか。子ども向けの遊具を置くとか。

(富田_地域振興課副課長)

まず観光協会発行のパンフレットだが、これは田頭委員からのご指摘を受け、私も初めてこういう中身であることを知った。本庁のにぎわい創出課にも確認をしたところすでに把握済みで、訂正した新たなパンフレットを作成中であるとのこと。今現在、関係各所へすでにお渡ししたパンフレットと差し替えで対応するとのことを確認した。もう一点、こいのぼり公園の名称およびキャンプの不可については今日すべてお答えを用意することができないので、持ち帰らせていただいて来年度の十和地域まちづくり推進協議会の議題に挙げてはどうかと思う。

(安藤岳会長)

皆さんそれでよろしいか。

(一同)

異議なし。

(安藤岳会長)

それでは本日の議事はすべて終了とする。

(竹本_地域振興局長)

今日をもって、今年度の十和まちづくり推進協議会の会合は4回すべて終えることができた。委員の皆さんのご協力に感謝する。来年度もこのまちづくり推進協議会は開催する。委員の公募も行うので、興味のある方は手を挙げていただけたらと思う。

— 終 了 —